音羽地区

今宮神社

音羽地区町会連合会

昭和42年11月結成

高田老松町会　目白台豊川町会
目白台雑司ケ谷町会　音一文化会
音二町会　音羽三和会
音羽四丁目町会　音羽五丁目町会
音六町会　音羽七和会
音八会　音羽九桜町会
小日水町会　古川松ヶ枝町会
関口一丁目南部会　関水町会
関口町会　目白台二丁目町会
関口二・三丁目町会

歴代会長

初代　和田　宗市（昭和42年11月～昭和51年12月）
二代　相川金次郎（昭和52年1月～平成14年10月）
三代　小黒三治郎（平成14年10月～平成15年1月）
四代　村松孝四郎（平成15年1月～平成22年5月）
五代　金輪　精梧（平成22年5月～）

地区町会連合会のあゆみ

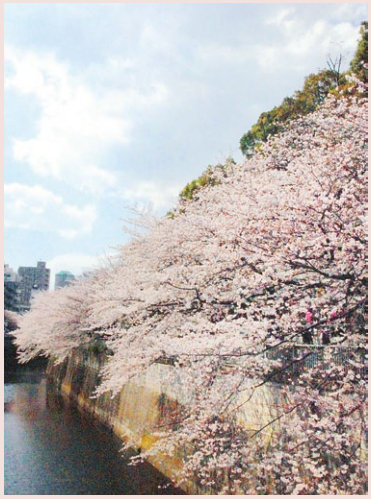
音羽地区は、文京区の最西部に位置している。地理的な特徴として、目白台・関口台の台地から神田川沿いと音羽通りに続くなだらかな傾斜地が大半を占める。

新江戸川公園

さらに、水面に映る桜花が美しい江戸川公園や回遊式泉水庭園である新江戸川公園、多目的広場やテニスコートなどが充実した目白台運動公園があり、また、江戸幕府の将軍徳川綱吉の母親である桂昌院の願いにより建立された護国寺をはじめとして野間記念館や永青文庫、椿山荘、関口芭蕉庵、東京カテドラル聖マリア大聖堂など数多くの文化財や史跡に恵まれた街である。

なお、音羽の名の由来は、前述した桂昌院付きの大奥女中「音羽」からと伝承されている。

さて、音羽地区町会連合会は、東京23区域で自治権拡充運動が活発化した昭和42年11月に創立総会を開催し、結成したものである。なお、発足当時の19町会の会長は、次のとおりで


江戸川公園

音羽通り（目白坂下付近）

ある。

高田老松町会	秋山	義綱
目白台豊川町会	荒木	伊佐味
目白台雑司ヶ谷町会	佐々木	正三
音一文化会	石川	増
音二町会	平沢	作次郎
音羽三和会	宮島	昇
音羽四丁目町会	小林	傳太郎
音羽五丁目町会	橘	俦
音六町会	都筑	武夫
音羽七丁目町会（音羽七和会）	横田	慶司
音八会	小峰	久平
九桜会（音羽九桜町会）	和田	宗市
小日水町会	坂田	義雄
古川松ヶ枝町会	鈴木	俊一
関口一丁目南部会	相川	金次郎
関水町会	向井	一太郎
関口町会	坂本	紀一郎
目白台二丁目町会	西田	吉蔵
関口二・三丁目町会	宮川	英子

目白通り

音羽地区町会連合会の結成から、すでに50年近い歳月が経過した。神田川の改修工事や東京メトロ有楽町線（江戸川橋駅・護国寺駅）の開通、音羽通り沿いの再開発、目白台運動公園の開園等を経て、この街は大きく発展してきた。今後も、東京大学の目白台国際宿舎建設プロジェクト等により、音羽地区はさらに変化していくだろう。

地蔵通り

しかし、私たちは「音羽地区全体の福祉と、おもいやりのある温かい社会づくりを目指す」という、連合会結成当時の思いをなんら変えることなく、日々活動を続けているところである。先人から伝わる、この思いと活動が、さらに若い未来の世代にも引き継がれていくことを祈念したい。

清戸坂（不忍通り）

音羽通り（音羽二丁目付近）

髙田老松町会

昭和31年4月1日結成

歴代会長

初代　佐藤　勘吉（昭和31年4月～昭和41年10月）
二代　秋山　義綱（昭和41年11月～昭和52年3月）
三代　小黒三治郎（昭和52年4月～平成15年3月）
四代　加藤　髙良（平成15年4月～平成24年2月）
五代　沼田　幸昭（平成24年3月～）

町会のあゆみ

現在、私達の住む町、髙田老松町は昔大名屋敷が多く由緒ある町で、その頃の地名は、髙田の里と呼ばれていました。

よく、髙田老松町会の町会名の由来を聞かれますが、昔の人々の話によれば、細川家屋敷のあった、現在老松消防署の裏の奥地に、見事な鶴と亀の松の銘木があり、その木に、まつわり、町会名が出来、現在に至った事と思われます。

昭和14年頃、昔の細い泥道が道路改正で現在の広い道路（目白通り）と成り、三角広場の児童公園が出来（目白台3丁目バス停前）子供達の遊び場となりました。

終戦後、進駐軍の指令により団体組織が禁止され、町会住民の親和がうすれる姿に、昭和28年頃、文化会を結成し、子供中心とした会を作り、町の友好に努めつつ、昭和31年4月再度、髙田老松町会は発足、多様化した時世に対応しながら、地域の発展に努め防犯・防火・交通安全運動の推進に協力、親和の為にちびっ子納涼大会・レクリエーション・もちつき大会・懇親会等等開催し、又、大震災に対する、防災対策を行い町民一同、平和で安心できる町造りに専念しております。

防火防災訓練

交通安全運動

防災訓練（起震車による地震体験）

ちびっ子納涼大会

目白台豊川町会

昭和24年7月結成

歴代会長

初代　守田豊太郎（昭和24年7月～昭和28年5月）
二代　星野　正夫（昭和28年5月～昭和36年5月）
三代　長宗　泰造（昭和36年5月～昭和38年5月）
四代　荒木伊佐味（昭和38年5月～昭和53年4月）
五代　塚本八五治（昭和53年5月～昭和59年4月）
六代　今田　定俊（昭和59年5月～平成14年4月）
七代　岡嶋　三郎（平成14年5月～平成18年5月）
八代　北原　　稔（平成18年5月～平成24年5月）
九代　上田　泰正（平成24年5月～）

町会のあゆみ

当町会は、明治11年11月に高田豊川町会と命名されて以来、時代の変化と共に様々な変化を遂げつつ今日に至っています。古くは、町会内には、鍛冶屋、化粧品、石鹸、撚糸、チョコレート、マーガリン、友禅染などの工場や大きなお屋敷、長屋などがありました。

昭和初頭の、不忍通りと目白通りの拡幅工事にはじまり、戦後、町会のほとんどの地域を占めていた、小布施新三郎さんの土地が分譲され、その一部が豊明小学校となり、昭和40年代後半からは、家の建て替えが進み、バブル期を経て、街並みは大きく変化してきました。

一方で、太平洋戦争の米軍による空襲により、近隣の街が焼け野原となってしまった中にあって、当町会は一部が焼けただけで、ほとんどの戦禍を免れ、戦前からの古い町並みが残る貴重な地域でありました。木造の長屋や井戸が多数残り、「井戸端会議」という言葉がぴったりな暮らしがありました。

現在では、新しいマンションや住宅が増え、古くからのお住まいの方々に加え、新しくこの地で生活される方が加わり、人口も徐々に増えてきています。

こうして歴史を刻んできた当町会は、街並みやお住まいの方々が変化しても、楽しく、そしてなによりも安心・安全に暮らせる町とするべく、様々な行事を、町会員が力を合わせて実施しています。これらの、行事を通じて、新旧の住民の交流も進み、さらに住みよい町へと進化しています。

■主な事業

春秋の交通安全運動、火災予防運動、防災訓練、新入学・成人・敬老祝い、夏休みラジオ体操＆紙芝居、バスハイク、餅つき、お祭り

ラジオ体操のあとの紙芝居

楽しい伝統の餅つき

夏休みラジオ体操

町会の中心を通る豊坂

町会のシンボル豊川稲荷

たのしいお祭り

目白台雑司ヶ谷町会

昭和26年4月結成

歴代会長

初代　多田顕次郎（昭和26年4月～昭和28年3月）
二代　武藤　文人（昭和28年4月～昭和29年3月）
三代　加藤勝之助（昭和29年4月～昭和34年3月）
四代　吉荒　貞吉（昭和34年4月～昭和36年3月）
五代　秋山己代吉（昭和36年4月～昭和40年3月）
六代　佐々木正三（昭和40年4月～昭和62年2月）
代行　柴田　隆一（昭和62年3月～昭和63年4月）
七代　高橋　春吉（昭和63年5月～平成7年5月）
八代　村松孝四郎（平成7年6月～平成22年8月）
九代　窪田　新一（平成22年9月～）

町会のあゆみ

昭和26年に新しい組織が発足し、当時は30余店舗が有った不忍通りの商店街「親和会」の方々がリードして町会活動を活発にし、今日の基礎を築いた。また当地域は古くから住む人も多く、商店と調和のとれた町が長く続いた。平成になると分譲マンションが9棟建設され、また宅地の分譲も増えて現在は町会員世帯数が約700となり、マンション世帯が40%を占めるに至っている。

当町会内には、明治43年現在の筑波大学附属盲学校が、また明治41年には後の東大付属病院分院の移設があった。現在の分院跡地には平成27年から1000人収容の東大留学生宿舎の建設が予定されている。加えて平成23年に2000人の企業が移転しており、これ等大規模施設との共存がテーマとなっている。

昨今の町会活動は直下型地震の対応、高齢者対策が重要課題である。平成24年4月には、町内の安全な6ヶ所を震災時の「一時集合場所」に選定し、会員自身で確認して貰う為、場所を巡るスタンプラリーを実施した。第2弾として大震災直後の「高齢者安否確認」作業について防災委員会が検討し、50名の役員（組長）が中心に活動する事を決めた。第3弾として「いざという時」に共助活動に参加出来る会員を募り「ボランティア登録制度」を計画している。これを機会に町会活動・共助へ特に現役世代の関心が高まることを期待し、更なる町会組織の結束を目差したい。

八代村松会長は「特別災害基金」を創設し、約8年に亘って貯えた。防災、減災の活動資金を準備した先見の明に感謝している。

H25 一時集合場所宝さがしツアー風景

H24 一時集合場所スタンプラリー風景

音一文化会

昭和28年4月結成

歴代会長

初代　大山喜一郎（昭和28年4月～昭和29年3月）
二代　金輪　益三（昭和29年4月～昭和30年3月）
三代　石川　　増（昭和30年4月～昭和48年3月）
四代　奥村孝三郎（昭和49年4月～平成3年9月）
代行　森田　一郎（平成3年9月～平成4年3月）
五代　金輪　精梧（平成4年4月～）

町会のあゆみ

音羽通りは護国寺の門前町として栄え、護国寺を中心に1丁目、2丁目… 9丁目と云う住居表示が、昭和42年に皇居を中心に1丁目、2丁目と変更になりましたが、町会は従来のままで「音一文化会」も町名変更せず今日に至っています。

音羽通りを走っていた、都電20番が昭和46年に廃止になり、現在は都バス上58番が走っています。昭和49年に営団地下鉄有楽町線が開通、護国寺と云う駅が出来、町会に2ヶ所の出口も出来ました。その後26号線の拡幅により都市計画が進み、マンション・事務所ビル等が立ち並ぶようになり、個人の住宅は数件を残すのみとなりました。

昔の街並みを知る者にとっては、寂しい限りではありますが、これも時代の流れと云うのでしょうか。

町会の行事は9月の第1週目の土・日曜日に行われる今宮神社のお祭りです。日曜の正午には10町会が護国寺に集合し、各町会の山車を引きながら今宮神社迄歩きます。又、3年に一度の大祭には音羽通りを通行止めにし、沢山の担ぎ手の大神輿が出て、また一段と賑やかになります。

70歳以上の方へ敬老の日のお祝いとしてお赤飯・紅白饅頭をお配りしています。

町会の高齢化が進んでいますが、若手後継者達に期待し世代交代をしたいと思います。

製作年数1年9ヶ月・重量700kgの手作り大神輿

昔の街並みの残る風景の写真（25年前）

音二町会

昭和24年7月結成

歴代会長

初代　小林　義一（昭和24年7月～昭和30年4月）
二代　新倉　誠一（昭和30年4月～昭和40年3月）
三代　平沢作次郎（昭和40年4月～昭和58年3月）
四代　大林　　進（昭和58年4月～昭和60年6月）
五代　内田　政昭（昭和60年7月～平成15年4月）
六代　堀内　賢一（平成15年4月～平成20年10月）
七代　中嶋　秋正（平成20年10月～）

町会のあゆみ

今回創立60周年記念誌を創るとのこと月日の早さに驚き30周年記念誌から30年、この間音羽通り、当町会も大きくかわりました。道路拡幅に伴うアベニュー音羽、ノーブル音羽再開発ビル講談社も土地を取得し26階高層ビル。町会活動としては全国交通安全運動の参加、防犯・防災は特に震災への備え、スタンドパイプなど購入検討、地域の安全に力を入れている。レクリエーションのバスハイクも参加者が少なくなり、変わるものを検討している。今宮神社の祭礼には町会の祭礼委員会を作り、続けている。戦後の昭和25年まだ大変な時、子供達の為有志でお金を出し合い、山車・神輿を造ったと聞いている。又住民の方からお祭りは子供の頃が懐かしく孫も参加させたく是非続けてほしいとの声もある。役員も高齢化辛いこともあるが何とか若い方の力を借りて後生をつないでいきたい。写真は20年弱前の婦人部も一緒のお祭りの打ち上げ。懐かしい人の顔も、もう一枚のお花見の写真は当町会の古い一枚。関東大震災の翌年元気出そうと護国寺から飛鳥山まで花見に行ったと聞いている。思い思いの支度をし長屋の花見的な楽しんだ雰囲気が見られる。

相当古くから町会の組織はあったらしく活動活気が感じられる。護国寺の門前町の小さな町会小さいなりに住みよい楽しい街を後生に伝えていきたい。

飛鳥山の花見（関東大震災の翌年）

お祭りの打ち上げ

音羽三和会

昭和21年4月結成

歴代会長

初代　望月　重一（昭和21年4月～昭和24年6月）
二代　清水　清助（昭和24年7月～昭和28年6月）
三代　宮島　　昇（昭和28年4月～昭和43年3月）
四代　城和　義雄（昭和43年4月～昭和57年10月）
五代　小島　作造（昭和58年4月～平成3年3月）
六代　矢澤清太郎（平成3年4月～平成14年3月）
七代　志田　幸雄（平成14年4月～平成23年3月）
八代　鶴岡　　明（平成24年4月～）

町会のあゆみ

当町会は、旧音羽三丁目域内の住民の親睦と地域の発展を旨として発足。当初は音羽三丁目町会と称していたが、住居表示の変更に伴い現名称の音羽三和会と改称した。

一年の行事は、今宮神社、護国寺の初詣に始まり、新年町内初顔合わせ。二月には豆まき。四月には江戸川公園の花見。古紙回収での収益による婦人部のお母さん達が企画する町内の子供たちを連れての川遊び、そして、最大のイベント今宮神社の祭礼。敬老の日には婦人部による町内高齢者に対しての記念品贈呈を兼ねた慰安訪問。秋にはバス旅行、都内の名所、レストラン探訪など盛りだくさんである。

一年を通じて、婦人部のお母さん達にはたいへんお世話になっており、和気あいあいとした三和会です。

子供みこし渡御

神酒所にて

川遊び

バス旅行

音羽四丁目町会

昭和24年7月結成

歴代会長

初代　小林傳太郎（昭和24年～昭和52年）
二代　山口長太郎（昭和52年～昭和54年）
三代　原　金八（昭和54年～昭和56年）
四代　大山　泰児（昭和56年～昭和58年）
五代　香川　高光（昭和58年～昭和60年）
六代　酒巻鉄次郎（昭和60年～平成5年）
七代　山口　貞二（平成5年～）

町会のあゆみ

戦争中は隣組の協力により町は延焼をまぬがれ、戦後はいち早く町会の組織も復活した。昭和49年10月30日に有楽町線が開通し、以後音羽町は交通需要の増加による近代化に伴い、町はたちまち高層ビル・マンション等が建設され、商業と住居が混在する町となった。

町名の由来は、幕末期の当町は（音羽町四丁目、寺）で明治2年（地方二番組音羽町四町目）となり、同10年（音羽町四丁目）となった。

紙問屋、小学校（望月小学校、渡辺小学校、加藤小学校、等）が多かった。

昭和初期　今宮神社

平成24年大祭礼　光文社前

音羽四丁目町会

音羽五丁目町会

昭和24年7月結成

歴代会長

初代　奥村　金一（昭和24年7月～）
二代　奥村　よね（昭和37年4月～）
三代　橘　　侍（昭和39年4月～）
四代　大場伊之助（昭和47年2月～）
五代　大場伊久夫（昭和47年4月～）
六代　木村　　功（昭和57年4月～）
七代　高橋　哲夫（昭和62年4月～）
八代　大山　恒夫（平成10年4月～）

町会のあゆみ

■**新年会**
■**総会**（後の懇親会）
■**秋のバスハイク**
（1年おき位に行っています）
■**祭礼**

祭礼の時は、前日より町会員の皆さまのご協力をいただき、提灯の取り付け、子供達へのお土産の用意、神酒所設定などの準備に取り掛かります。

参加者全員、事故などに遭わぬように充分な配慮をし、山車、神輿に集まる子供達の笑顔を見ると幸福を感じます。

午後は殿方、ご婦人がまざり神輿を担ぎ町会を練りまわす。担ぎ手も見物の人々も笑顔で無事終える次第です。

これからも隣町会と仲良く、行事を行っていける様に思いながら益々の町会の繁栄を祈念いたします。

H25年 今宮神社祭礼

音六町会

昭和24年3月設立

歴代会長

初代　松本　望（昭和28年4月～昭和29年3月）
二代　小木曽太三郎（昭和29年4月～昭和33年3月）
三代　稲葉吉太郎（昭和33年4月～昭和34年3月）
四代　加藤　直（昭和34年4月～昭和36年3月）
五代　都築　武夫（昭和36年4月～平成3年）
六代　池田　正雄（平成3年～平成11年1月）
七代　矢萩　捍（平成11年2月～平成12年1月）
八代　加藤　昭吾（平成12年1月～）

町会のあゆみ

音六町会の設立は昭和24年3月である。この時期、まだ戦災の焼け跡が残っていて街が完全ではなかった。戦時中「となり組」の組織を基盤として幹部10人ほどの合議制で町会の運営を実施していたが、実に困難な時代で幹部の方々の苦労は大変なものだった。そこで組織づくりをしなければならないことになり、そこで町会を代表する会長の選任を行うこととなり、総会を開催し、初代会長にパイオニア株式会社社長松本望氏が就任したのが始まりで、現在の八代目会長に及んでいる。

その間、音羽の街は大変な変貌をとげた。昭和19年3月の空襲で音六町会も音羽通り東側のねずみ坂下水窪川、西側鳥尾坂下弦巻川より江戸川橋までが焼け、昭和30年ころまで空き地の目立つ、木造の街並みであった。その後、都民に親しまれていた「都電」が有楽町線開通のため、昭和46年に撤去され、現在の地下鉄に潜り、道路は広くなり、丸の内のオフィスビルとはいかないが、立派なマンション街になった。

これからも時代の変貌とともに新時代に沿った会員の皆さんに喜ばれる町会運営を考えなければならない。特に東日本大震災以降は地域住民の防災への関心がさらに高まってきており、江戸川橋周辺の8町会で構成する旧第五中学校避難所運営協議会での訓練等の町会員の参加が増えている。

他にも毎月の防犯パトロールや役員会、季節ごとの交通安全の交通整理、清掃の日等に協力している。青少年健全育成のために夏のラジオ体操会、老人週間には敬老の集い等を実施している。

今宮神社の祭礼における子ども神輿や山車巡行等の年中行事を今後も役員と会員が一緒になり、引き続き盛り上げていきたい。

音六町会の役員のみなさん

音羽七和会

昭和25年4月結成

歴代会長

初代　手塚　貞造（昭和25年4月～昭和35年3月）
二代　森田　　清（昭和35年4月～昭和41年3月）
三代　横田　慶司（昭和41年4月～昭和48年3月）
四代　横田　重一（昭和48年4月～昭和57年3月）
五代　阿部　和男（昭和57年4月～平成14年3月）
六代　増田　隆二（平成14年4月～）

町会のあゆみ

当七和会は旧音羽七丁目町会として昭和25年4月より結成され、町名変更により自治会音羽七和会の名称の下、新音羽1丁目町会に組入れされる。初代会長より現会長まで六代の会長がその任に当って来ている。今日の自治会内総戸数（会員外も含む）470戸帯自治会員305戸帯の基で組織運営されている。

年間事業として主な物では氏神今宮神社例大祭が連合及び町内渡御と山車御神輿に大勢の子供達も参加している。

又、恒例行事の町会員親睦日帰りバス旅行も楽しみな行事になっている。自治会内には文京福祉センターがその施設の事に当っており、又旧鳩山邸も今日では鳩山会館として開放され観光コースにもなっている。

音羽通り全般に言える事ではあるが、昭和49年地下鉄有楽町線の開通と同時に表通りはビル化が進み、今日では木造家屋もすっかり見られなくなった。近年自然災害時の事や防火・防犯等に近隣住人等の連帯互助意識の増々の向上を願う今日此の頃である。

昭和48年親睦バス旅行（川越喜多院）

平成25年今宮神社祭礼時集合写真（役員及び有志一同）

音八会

昭和28年11月結成

歴代会長

初代　宮崎辰之助（昭和28年11月～昭和30年3月）
二代　石原仁三郎（昭和30年4月～昭和31年12月）
三代　田草川　薫（昭和32年1月～昭和37年12月）
四代　坪田　麻夫（昭和38年1月～昭和39年12月）
五代　小峰　久平（昭和40年1月～昭和51年12月）
六代　代田　兼吉（昭和52年1月～昭和56年12月）
七代　宮原　惣一（昭和57年1月～平成12年12月）
　　武藤　時二（平成13年1月～平成13年12月（会長代行））
八代　黒田　信喜（平成14年1月～平成20年4月）
九代　木村　茂雄（平成20年4月～平成24年3月）
十代　小峰　久幸（平成24年3月～）

町会のあゆみ

音八会は音羽の鎮守今宮神社の傍にある八幡坂の下です。坂の途中には石川啄木が初めて上京した時に下宿した家があったことで知られています。

音羽通りの東側は音羽1-5と6、西側は1-24と25という極めて小さな町会です。

あまりにも小さいためなのか、九桜会の中の一部に「飛び八」と呼ばれる飛び地を抱えている一風変わった町会でもあります。

町会発足以来みんなで力を合わせ、新年会を兼ねた総会、お花見、今宮神社祭礼、レクリエーション、入学、成人、敬老など祝事の各種行事を続けています。

この10年「小さな町会の大きな仕事」をモットーに始めたことが2つあります。

今宮神社祭礼時の土曜の夜が静かなので少しでも盛りあげようと宵宮を平成13年から実施しました。担ぎ手が集まるか心配でしたが、近隣各町会や都内のみこし同好会などのご協力、大塚警察署のご支援のお蔭で10年を過ぎても続けられています。

婦人部の夜遅くまでの接待も好評のようです。今後も続けるためには婦人部の協力は欠かせないことと思います。

もう一つは、どうしたら音羽の町の活性化につながるだろうかと考え思いついたのが、季刊紙「音羽通」の発行でした。平成17年3月「音八会会報」（仮称）として創刊、名称募集のうえ、「音羽通」と決定。「オトワドオリ」ですが「オトワツウ」としても読まれるよう地域の情報を伝えるミニコミ紙を目指して誕生しました。

創刊以来8年30号まで発行。何とか根付いたところです。音羽の大地にしっかり根を張り、枝を伸ばし成長したいと思います。

音羽通りを渡御する音八町会神輿

音羽九桜町会

昭和28年8月結成

歴代会長

初代　小西　彦市（昭和28年8月～昭和33年3月）
二代　小川　仲三（昭和33年4月～昭和41年3月）
三代　和田　宗市（昭和41年4月～昭和51年3月）
四代　片岡　富蔵（昭和51年4月～昭和61年3月）
五代　島根　芳男（昭和61年4月～平成9年3月）
六代　小西　一郎（平成9年4月～平成12年3月）
七代　片岡　良造（平成12年4月～平成20年3月）
八代　桑原　昭彦（平成20年4月～平成24年3月）
九代　利根川康夫（平成24年4月～平成26年3月）
十代　徳野　博信（平成26年4月～）

町会のあゆみ

音羽九桜町会は、初代小西彦市会長のもとで昭和28年8月に創立総会を開き今日に至っている。もともと当町会の最大の目的は住みよい社会生活ができる環境づくりで、町の人々の親睦、互助精神を持ち、大きな家族の気持ちでいつも変わらぬ明るい町会を目指している。

役員一同及び婦人部の方々の何事にも積極的に参加し、結束の堅さを初代会長よりの伝統として受け継がれている。

南に江戸川公園、北に今宮神社に接し、生活環境も勝れている。

江戸川橋を渡り護国寺に向かって左右が私どもの町会で、遠く江戸時代音羽通りが繁盛し、水茶屋などもあった。差し当たって参拝客も多い護国寺の仁王門的役割を我々の先祖がしたのではないかと思われる。

町会名称は、音羽町9丁目と桜木町（現・小日向2丁目の一部）の頭文字をつけて音羽九桜町会（当初「九桜会」と称した。）という町会名にした。

今日、新年会、成人祝い、新入学祝い、観桜会、今宮神社のお祭り、敬老祝い、交通（春・秋全国交通安全運動）、広報・厚生（リサイクル活動）、防犯、防火・防災（旧第五中学校避難所運営協議会活動）、募金等々の行事は恒例として役員一同が積極的に行っているが、各種行事に町会員の参加が少ないことが悩むところである。

今宮神社例大祭

日帰りバス旅行「秋の房総“食”めぐり」（H22.11.14）

小日水町会

昭和24年6月結成

歴代会長

初代　坂田外治郎（昭和24年6月～昭和32年5月）
二代　丸山　良二（昭和32年6月～昭和38年5月）
三代　坂田　義雄（昭和38年6月～平成7年5月）
四代　星合　尚（平成7年6月～平成21年3月）
五代　坂田　義輝（平成21年4月～）

町会のあゆみ

第二次大戦後壮年者による小日向水道町睦会が創設され、その後青年による文化会が誕生し、昭和24年4月に各会を一本化して小日向水道町会として再発足した。その後住居表示により、小日向2丁目と水道2丁目の一部を合わせて小日水町会と改名した。

平成24年度の事業の主なものをあげてみる。

初詣で　1月1日（小日向神社）

「地元の神社を大切にする」という坂田義輝会長の方針で、毎年町会員が20名近く集まり宮司より町会の繁栄を祈りお祓いをしていただいている。

狛犬祭り　5月13日

3・11の大地震で小日向神社の石灯ろうの屋根が落ちてしまったので、氏子町会でお金を出し合って狛犬を造り奉納した。当日は講談社の「おはなし隊」の車が来て、子どもたちに絵本の読み聞かせをし、Tシャツをプレゼントしてくれた。新しい狛犬の前で町会婦人部がTシャツを配ろうと待機しているところである。他の町会と協力して、わたアメ、ソースセンベなどを子どもたちに提供し盛会だった。

小日向神社祭礼　9月8日～9日

神輿をかつぎ、山車（だし）を引いたあと、子どもたちにお菓子とゲーム券を配っている。風船たたき、輪投げ、わたアメ、かき氷など町会青年部、婦人部全役員が総出で運営している。子どもたちに祭礼のハッピを貸し出しているが、外国人の子どもも親と一緒に借りに来る。外国人が奉納金まで出してくれる。祭りも国際化してきたのかもしれない。

ゲーム券を出してから子どもたちが多数集まるようになった。小日水町会の特徴は和気あいあいとまとまっていることである。

狛犬祭り

小日向神社祭礼

古川松ヶ枝町会

昭和24年7月結成

歴代会長

初代　　鈴木　俊一（昭和24年～昭和60年）
二代　　鈴木　邦男（昭和61年～平成12年）
三代　　藤田　洋吉（平成13年～）

町会のあゆみ

昭和37年から実施していた敬老会は、慶祝金を5年ごとの節目に贈呈しています。

恒例としての夏季ラジオ体操については、児童数の減少により、関口一丁目南部町会との合同行事として担当を隔年として継続実施しています。

町会員親睦行事は、バスハイクを恒例行事とするべく、毎年実施しています。昨年度は東京都防災体験施設（そなエリア東京）をその旅行に組み込み参加者全員で体験学習を実施しました。さらに、従来は餅つき大会として実施していた年末行事を、今年度は当町会初となる「総合防災訓練」として実施いたしました。

防災活動に就いては、旧五中避難所運営協議会に積極的に参画し、スタンドパイプ（消火設備機器）配置については平成24年度末、東京都の助成を受けて設置いたしました。

夜警に就いては、昨年度まで暫くの間は年末の7～10日間と縮小傾向にありましたが、今年度は年末に加え年始にも実施することになり、また春秋の交通安全運動、タバコポイ捨て運動等町会員の防災・防犯意識高揚のための行事を一層充実させるよう検討・推進しています

小日向神社例祭に就いては特に大人御神輿に就いて南部町会と隔年に担当を替えて渡御しています。さらに平成24年度は関口水道町会とも協力体制を構築、今年度以降は関口町会とも共同渡御を検討しなければならない状況です。（関水、関口町会とは氏様が異なるのですが、お互い協力し合って実施していきます）

南部、関口、関水の各町会と当町会の4町会での協力、さらに音羽地区との連携も踏まえた活動を今後とも実施していく予定です。

平成19年9月 小日向神社例祭記念

平成24年12月 総合防災訓練

関口一丁目南部会

昭和27年11月結成

歴代会長

初代　　中川　政吉（昭和28年11月～昭和34年12月）
二代　　戸田　文男（昭和35年1月～昭和40年2月）
三代　　相川金次郎（昭和40年3月～平成14年10月）
四代　　島田　幸勇（平成15年3月～）

町会のあゆみ

当町の地名の歴史は9世紀頃に刊行された「和名抄」に「日頭」郷の地名があり、これが小日向であると云われております。

鎌倉時代に江戸重長と云う豪族がこの地を支配していたが太田道灌との戦いに敗れ天文年間より豪族　小日向弥三郎・小日向弾正が小日向村と名乗ったものと思われます。

昭和40年頃より、相川金次郎会長を始め九町会（関口町会・関水町会・関口一丁目南部会・古川松ヶ枝町会・小日水町会・武島町会・西江戸川町会・水道端町会・後楽町会）で神田川治水対策協議会を結成、都知事・都議会・区に働きかけを行いました。

昭和41年10月住民の署名を添え治水対策を早急に進めるよう都河川部・下水道局に強く交渉し昭和44年頃より江戸川橋―下水管一本埋設、江戸川―白鳥橋・江戸川橋―船河原橋にそれぞれ放水路二本が作られました。

湯島ポンプ場・三河島処理場は大きな役割を果たしております。

これも一偏に先代相川金次郎会長の指導力と実行力の賜物と深く感謝いたしております。

平成23年に当町会請願により老朽化したポンプから新しいC級ポンプを貸与されました。

町会活動は交通安全・防犯・防災訓練・歳末警戒又今後の災害に対して、近隣町会と協力して様々な事業を実施しております。

町会では町民の親睦を絆にラジオ体操・レクリエーション・小日向神社祭礼・盆踊り大会・成人の祝・入学・卒業の祝・敬老の祝いを実行しております。

これからも安全・安心の町として努力して参ります。

平成23年11月13日　町会防災活動への理解と新旧会員の親睦と加入促進の会にて

関水町会

昭和37年5月結成

歴代会長

五代　榎本清五郎（昭和37年～）
六代　片岡桂太郎（昭和37年～昭和39年）
七代　大岩　幸次（昭和39年～昭和41年）
八代　中内　佐光（昭和41年～昭和50年）
九代　向井一太郎（昭和50年～昭和59年）
十代　前田　勝（昭和59年～昭和60年）
十一代　片岡　勇（昭和60年～昭和62年）
十二代　片桐　政雄（昭和62年～平成4年）
十三代　八幡喜代治（平成4年～平成14年）
十四代　佐藤　正（平成14年～平成18年）
十五代　宮崎　文雄（平成18年～平成25年）
十六代　萩元　賢一（平成25年～）

町会のあゆみ

江戸時代　江戸町民の水道として大変重要な役割を果たした神田上水を町名の縁としています。大正12年に発生した未曾有の関東大震災の復興を契機として近隣住民のための組織要請などを鑑み、大正13年4月に関口水道町・町会として発足しました。戦後町内各位の要望により再発足し現在に至っています。1970年代に移り都市のビル化および地下鉄有楽町線の開通に伴い（以前より町会内に2大金融機関の支店を有していた事もあり）地域経済の中心として近隣町会と共に進歩発展をし、大きな変貌を遂げています。現在の町会活動は防犯・防火・交通・厚生・公共事業援助・青少年の育成および行政サービスのサポーター等多方面にわたっています。町会員同士の親睦を基に地域の安全・平和・発展を願い積極的に活動しています。

江戸川橋付近

関口町会

昭和26年6月結成

歴代会長

初代　西村信次郎（昭和26年6月～昭和32年3月）
二代　横山　軍治（昭和32年4月～昭和34年3月）
三代　坂本紀一郎（昭和34年4月～昭和37年1月）
四代　盛　昌義（昭和37年2月～昭和38年5月）
五代　坂本紀一郎（昭和38年6月～昭和54年7月）
六代　佐々木夫士雄（昭和54年8月～昭和56年9月）
七代　市原　千秋（昭和56年10月～昭和59年3月）
八代　飯田　茂（昭和59年4月～昭和60年5月）
代行　翠川　亀逸（昭和60年6月～昭和61年3月）
九代　市原　千秋（昭和61年4月～平成 4年4月）
十代　翠川　亀逸（平成4年6月～平成 9年1月）
十一代　天沼　惣重（平成 9年2月～平成12年9月）
代行　橋本　政治（平成12年10月～平成13年3月）
十二代　橋本　政治（平成13年4月～平成15年3月）
十三代　淺野　和夫（平成15年4月～）

町会のあゆみ

前回の発行から30年が経過し、街は大きく変貌し、その頃多く住んでいた職人さん（大工・鳶・左官・建具）は皆無に近く、その子息はサラリーマンをめざし、大きな工場（塗装・靴下製造など）や商店（小鳥屋・米屋・パン屋・駄菓子屋・模型屋など）も廃業し、平屋の家も少なくなり、無機質なマンションが増え、住民の高齢化に伴い、オーナーさんとなった家主も上階に居を移し、わざわざエレベータで訪れる友もなく、大都会での過疎化・孤立化が進んでいる。

創立60周年目の平成23年3月11日におきた東日本大震災では、町内には被害もなくホッとしていますが、最近では東海・東南海・南海地震が連動して、発生するのではといわれ始めました。

当町会では平成19年の避難所運営協議会発足に伴い、減災面での強化を推進しており、D級消防ポンプ、連絡用トランシーバ、ガソリン発電機、平成24年に消火栓から直接放水できるスタンドパイプを導入し、月に一度の性能維持試験を続けております。

近隣町会を合わせ、関口一丁目四町会連合を発足させ、防災訓練・防犯パトロール等で協力し、近隣の安心・安全の確保と友好関係の向上を図るべく毎月第二金曜日に会合を重ねております。

町会独自には新年会、桜のお花見会、水神神社例祭、夏の親子納涼まつり、秋の正八幡神社の例祭には模擬店、歳末特別警戒、不定期の日帰りバス旅行、平成21年から年末にお餅つき会、等の行事を重ねています。

小学校入学児童、成人青年、町会員子息子女のいずれか一名に結婚祝い、75歳以上の高齢者には敬老の日に因んで、それぞれお祝い品の贈呈をおこなっています。

文京区の外れに近く環境は良く、新江戸川公園、目白台運動公園が徒歩圏内にあり、特に江戸川公園の神田川添の桜並木の花見の人出は区内屈指。是非この季節に関口町会周辺の散策をお勧めします。

平成24年11月17日 スタンドパイプ訓練

目白台二丁目町会

昭和33年9月結成

歴代会長

初代　柳下　友次（昭和33年9月～昭和36年5月）
二代　吉原　菊造（昭和36年6月～昭和41年1月）
三代　西田　吉蔵（昭和41年2月～昭和43年8月）
四代　武藤　文人（昭和43年9月～昭和51年9月）
五代　戸張　覚光（昭和51年10月～昭和63年）
六代　宮内　三郎（平成3年3月～平成12年2月）
七代　柳下　棟生（平成12年3月～平成15年2月）
八代　戸張　皖司（平成15年3月～平成24年2月）
九代　並木　榮一（平成24年3月～）

町会のあゆみ

我が町会は、旧雑司が谷町住民によって昭和33年新町会として結成され、不忍通りの西に位置し、町名変更に伴い、目白台2丁目町会と改称され現在に至っている。

柳下初代会長理念の親睦・調和・協力に基き各官公署に対する協力は勿論であるがその運営は会員の意思に基づく自主的なものであらねばならぬとの会則を定め、会の事業を行っています。

防犯・防火・交通安全には、各運動週間に参加し、防災については防災組織を結成し近隣町会と合同の防災訓練等を都度行っております。歳末夜警の火の用心では目白台みみずくパトロール隊を結成し、年末の10日間は毎夜町内回りをしております。

町内振興の為、秋季氏神例大祭を大鳥清土睦会と合同で行い、又雑司ヶ谷鬼子母神堂の守り本尊の出現所を有する当町会としては、毎年10月17・18日に行われる鬼子母神の御会式に有志が参加しております。

親睦福利のレクリエーションとして数年に1回は椿山荘での蛍の夕べ等の懇親会、祭りの後には子供の為に射的、金魚すくい、輪投げなどで大変好評です。今後は餅つき大会などにも挑戦したいと思っています。

みみずくパトロール隊出陣式

四町会合同災害避難訓練（青柳小）

関口二・三丁目町会

昭和24年4月結成

歴代会長

関口台町町会
　　丹下敏三郎（昭和24年4月～昭和37年3月）
　　菅沼　信夫（昭和37年4月～昭和42年3月）
関口二・三丁目町会（町名変更）
初代　　宮川　英子（昭和42年4月～昭和56年3月）
二代　　今井　房夫（昭和56年4月～平成9年3月）
三代　　奥山　政治（平成9年4月～平成13年3月）
四代　　後藤日出麿（平成13年4月～平成21年3月）
五代　　下山　　信（平成21年4月～）

町会のあゆみ

昭和24年4月関口台町町会として発足、昭和42年4月の町名変更と共に、関口2・3丁目町会と改称して、宮川会長より本格的な組織作りが始められた。

当町会は文京区の中でも一番の台地に位置し、町内には多くの坂がある。町の中央に目白坂、それに平行して旧目白坂が伸びる。北には胸突坂があり、その中ほどには芭蕉庵がある。そして北東には鉄砲坂、鳥尾坂と坂に囲まれている。

文京の地の名の通り、関口台町小学校、獨協中学・高等学校があり、文京区歌の作詞家で詩人、佐藤春夫氏の住居がある。神社仏閣も多く、正八幡神社、幸神社、養国寺、永泉寺、大泉寺、蓮光寺と、古くから人々の信仰を集めている。

また、東洋一を誇るカテドラル大聖堂と椿山荘。江戸時代椿山荘は黒田豊前守の下屋敷であった。その後明治の元勲 山県有朋公の屋敷となり、椿が多く自生していたため椿山荘と命名された。今でも都心としては緑の多い閑静な佇まいをみせる住宅地である。

当町会では毎年幾つもの行事を執り行い、地域の交流の場となっている。新年会から始まり、成人・新入学児童に記念品の贈呈、江戸川公園花まつり野点。夏休みにはカテドラル教会の広場で蝉の声を聞きながらラジオ体操。幸神社の祭礼の一環として、子供たちのお祭りを催している。町会発足当時から恒例となっている敬老会では、ご高齢者の方々を椿山荘へお招きして会員共々お祝いしている。歳末助け合い運動では毎年暖かい心付けが寄せられる。

会員の町会に対する関心も徐々に高まりつつある。大災害に備えて防災組織も結成され、防災訓練防犯、交通安全運動、福祉の面にと積極的な参加が見られる。

これからも縦、横の連絡を密にして、地域住民のご支援とご協力のもと、よりよい街づくりに”我が町は我等で守る”をモットーにして、努力したいと願っている。

幸神社祭礼

椿山荘での敬老会